

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題1 オウトウのウメシロカイガラムシに対する効率的な防除技術の確立

オウトウの枝幹性害虫であるウメシロカイガラムシは本県では5月と8月に発生しますが、第2世代の発生時期は越冬世代に比べ長期にわたり年次間差も大きいことから生産現場では防除に苦慮しています。

そこで、ウメシロカイガラムシの第2世代の発生時期及び防除適期を明らかにするとともに、近年、ハダニ類の新たな防除薬剤として利用されている気門封鎖剤の活用を含めた、効率的・効果的な防除法について検討します。



ウメシロカイガラムシ雌成虫

課題2 ハウスオウトウ病害虫の総合防除体系の確立

ハウスオウトウ栽培は、雨よけ栽培と比較し生育期間が長く、病害虫の発生消長も異なるため、防除の判断が難しく、褐色せん孔病の多発により黄変落葉の被害が発生しています。

本試験では、ハウスオウトウ栽培における褐色せん孔病の発生実態から防除適期を明らかにするとともに、効率的・効果的な防除体系を検討しています。



オウトウ褐色せん孔病の被害葉

課題3 春節に向けたシャインマスカット輸出を拡大する長期貯蔵技術の開発

海外でも人気の高いシャインマスカットを輸出するためには、収穫後、長期間鮮度を保持する必要がありますが、貯蔵中の病害による腐敗等が問題となっています。また、海外への輸出に当たっては、相手国が定める農薬残留基準をクリアしなければなりません。

そこで、本県の主な輸出先である台湾で需要の高い春節に向けて輸出するための長期貯蔵技術を開発するとともに、台湾等の輸出先の農薬残留基準に適合する防除体系を検討します。



貯蔵中に発生した腐敗果

課題4 おうとうオリジナル新品種「山形C12号」の 灌水技術の開発

本県オリジナルおうとう新品種「山形C12号」（やまがた紅王）は従来の品種よりも果実肥大に優れることが特徴で、市場や生産者から大きな期待がよせられています。

そこで、大玉品種という特性を十分に発揮できるように、4Lサイズ以上の果実割合を高めるための灌水技術について検討します。



ポット樹による灌水試験

課題5 ライシメータによる果樹園土壌養水分の数値化

地下から土壌溶液を採取できる「ライシメータ」を活用し、蒸発散量のモニタリング調査と併せて、おうとう栽培における養水分の環境収支（水と肥料成分の挙動）を明らかにします。また、温湿度や日射量等気象要因の継続的な観測と葉の光合成速度の測定を通して、おうとう樹体の栄養状態が乾物生産や果実品質に対する影響を調査します。

このような科学的なデータの集積を図り、高品質おうとう生産に向けた灌水技術や堆肥等有機物を含めた肥培管理技術について検討します。



ライシメータ（土壌溶液採取装置）